

加治木だより



城壁の中にある高校

校長 上今 常雄



女流作家の山崎豊子さんは「二つの祖国」(一九八三年、新潮社、旧制加治木中学出身で日系二世の伊丹 明をモデルとした小説)の取材で加治木を訪れたとき、伊丹が学んだ現加治木高校に立ち寄り寄つています。以下の文章は、新納教義先生の文化講演会(本校百年誌に掲載)の内容から引用したもので、簡略紹介してみます。

「加治木高校を訪ねてみました。駅の方から歩いてきてそして校門の前に立つて、そしたらずっと二〇〇メートルに亘る城壁がそこに連なっていた。私はその時、城壁の中にある高等学校、これは殆ど全国にその例を見ない珍しい高等学校だと思いました。

PTA活動雑感

PTA会長 植山 利博



私は、加治木高校創立七〇周年に在りし、一一〇周年に、保護者として子供と共に立ち会えたことは、とても感慨深いものでした。四〇年前の加治木高校を思い出してみると、今とは校舎や設備は目を見張るほどの隔世の感があります。校門や楠木、校庭などの佇まいは寸分変わらず、今に伝え残されています。また、校内の静けさやざわつきなど、生徒達や先生などの一挙手一投足はだぶスマートになってはいますが、あの頃と同じような雰囲気を感じ出しているように感じられてなりません。このように、校内に流れる風や、淀む空気は時代を超えて今日に伝えられ、それが伝統ということなのでしょうか。

第18号
2009.3.2
加治木高等学校
PTA発行

〒899-5214
鹿児島県姶良郡加治木町
飯屋町211番地

校長・PTA会長あいさつ P 1
生徒指導・保健・進路指導の各部より P 2
学校行事の感想 P 3
一日遠行・卒業に寄せてほか P 4・5
卒業生へはげましの言葉 P 6
部活動大会入賞記録 P 6

しばらく門の前に立つて、このお城が生きていた時代。この中で過ごした人たちのことを思ってみましょう。待望ですよね。その人達はまかり間違えば、常に自ら腹を切つてですね。自らの責任を明らかにしなければならぬ、という厳しい現実の中で、かつてこのお城の中に生きてきたんだということを考えると、私はこの高等学校の持つているひとつの厳粛な雰囲気というものに打たれました。校門の前に立つて、私はしばらくこの二〇〇メートルの城壁を見ていたんです。

また、校門に登り詰めたところで周囲を見回してみると、左手の方に文学碑が立っている。見ると海音寺先生の文学碑でした。冒頭に私の人間美学はここで形成された」と書いてあります。この雰囲気、城壁を見て感じたこの高等学校の雰囲気、かつてここには自ら過ちを犯したら腹を切らねばならない、そういう峻厳なたたずまいの中で生きていた人たちの場であったという。何かそういう雰囲気の中で海音

この二年間のPTA活動を振り返ってみると、多くの会員の皆様に支えられてとても楽しく、多くの学校行事に参加できました。ほぼ一〇〇%出席のPTA総会、理事会や保健委員会、桜の花冷えの中、厳粛にしかも希望に満ちた入学式、加高祭から龍門祭と衣替えした体育祭、文化祭、往復コースに変更になった一日遠行、吹奏楽部の定期演奏会、図書館で行われるJ・O・B、凛とした冷たい空気の中、新たな旅立ちの喜びと別れの寂しさが混ざり合う卒業式。すべての学校行事に多くの保護者の皆様が献身的に参加、お手伝いを戴きましたことに、この場を借りて心より感謝を申し上げます。

海音寺潮五郎氏は、「私の人間美学はここで形成された」と述べてられています。私自身振り返ってみると、人として生きるために、いかにあるべきかの人生観や規範意識、美意識等の根幹に関わることは、加治木高校時代に形作られたと感じています。人は、生涯を通じて学び続けることが大変重要な

寺さんは「この場で私の人間美学は形成されたんだ」と言っている。それを見たとき、私は加治木高校の校風というものを、誰にも聞いたことはいけど直観的に感じましたよ。」

この文章は、島津義弘公居館跡以来の歴史と本校建学以降の伝統・校風を言い当てており、日常の我々を覚醒させ、あらためて本校で学ぶ者に襟を正させてくれます。私は赴任以来、学校行事等の中で生徒達を見てみると、全体の中での個の在り方について、よく理解して場に応じた所作がきちんとできています。動と静の区別がよくできていて、ことを評価しています。本校の伝統・校風が生徒達の精神的な栄養となつて人格形成に役立っていることを実感しています。あらためて生徒達には、そういう目で城壁(石垣)や正門の前に立つて本校を見ていただきたい。これからも愛校心という情緒を持った品格ある加治木高校生が育っていくことを念じております。

ことだと思つていますが、高校時代はその基礎的学習をするところであり、自らが学び、考える訓練を身に付けるところだと考えます。子供達にはこの混沌とした時代、溢れんばかりの情報の中から真実を見抜き、より良く生きるために大いに学び、一冊でも多くの素晴らしい本と出合つてほしいものだと願っています。

読書にはその年代年代で共感し、感動すべき読書があるのだらうと思つています。高校時代というこの瞬間に、是非出合つてほしい本に巡り合つてほしいものです。

終わりに、この二年間、PTA会長の身に余る大役をなんとか大過なく終えられることは、役員の皆様はもとより、全ての会員の皆様はじめ、校長先生及び全ての教職員の皆様のおかげだと心から感謝申し上げます。そして今後、加治木高校のますますの発展と、全ての生徒さんの輝かしい未来を心より祈念いたします。

耐力

生徒指導部 是枝 忠彦

犬養毅元首相の孫である犬養道子さんは、著書のなかで「本当の体力よりほどこまで忍耐力があるか。体力のタイは『体』じゃなく『耐』というほうが適当かもしれぬ。」と述べている。

犬養さんは一九七九年以来、世界の飢餓や難民問題に関わるようになり、八十歳を超えてもご健在で、現在「犬養道子基金」を設立し、アジア・アフリカなど世界各地で難民支援事業を展開している。その活動を通して、ボランティアとして世界中から集まった多くの若者と接するなかで、日本人の若者の精神的な弱さを指摘している。活動している国々では、現地の人々はもちろん、ボランティアとして参加している若者たちの衣食住も不足するケースが多い。他国の若者たちは、一日くらい食事がとれなくても、地べたに数日間寝ても、誰一人辛い顔をせず黙々と作業に取り組むことができるが、日本から参加した若者のなかには、この状況に耐えることができずに逃げてしまふものがあるとのことである。

現代の日本人の体格は、戦後の食生活の変化などにより、欧米人にもひけをとらないくらい立派になってきている。ただ、その立派な体格でありながら、何かを途中で投げ出し、楽な方へ流れてしまいがちな日本人が増えてきている。そういう日本人だから、せっかく難民支援という高い志をもちながらも、辛い状況に耐えることができないのであろう。

加治木高校はさまざまな活動を通して、「耐力」を身につけることができる学校である。なぜ遠足が登山なのか、なぜ一日遠行があるのか、なぜ毎週大量の休日課題をこなさなければいけないのか、なぜ多くの校則を守らなければならないのか。多くの生徒が一度は考えたことがあるのではないかと。その答えの一つは、「耐力」を身につけるためである。私は、本校で培った「耐力」で、進路目標の実現という高い壁を乗り越えてほしい。

「笑って元気に！」

保健部 中村 万里子

世の中お笑いブームというのに「世界のナベアツ」に至ってはもうついていけない私がいる。そのうちに理解できるかもと、そこそここまかしく笑いで済ませておく。

「笑い」はヒトにのみ見られる感情表出であり、生後3〜4ヶ月になるとすでに発声を伴う哄笑が見られ、外的刺激に反応するようになる。幼子を見るとこちらまで無垢な笑顔になれるから本当に不思議である。

また、日常においては「笑い」がその場において一体感をつくり、人間関係を円滑にするというところは私たちがよく経験している。

一方、ガンの治療にも「笑い」は一役担っていることをご存知だろうか。楽しく笑うことによって間脳が刺激されて作られる善玉ペプチドがナチュラルキラー細胞の活性化を促し、自己治癒力の向上に繋がっていく。「笑い」の腹式呼吸は副交感神経の働きを助け、その影響で自律神経も整えられる。笑顔のリリースも効果は大きいのである。

それにしても、お笑いばかりに傾いている現象は少し気になる。困難を乗り越えられよう、目前の壁に正面から挑む姿勢も求めたい。真剣さとユーモアを兼ね備えた、バランス感覚のある人がこれからもっと要求されるに違いない。

最近「ぶつぶつ独り言が多いよ」と指摘される。年のせいばかりでもなさそう。怒ったり強いストレスを持つと、脳からノルアドレナリンという毒性が分泌されるという。もっとプラス思考で心身を癒し、「笑う門には福来る」と「大笑い」を紹介する行事のように、仲間と笑いを共有することで、更に笑いの効果を大にしていきたい。

最後に、運動すると脳の血流量は増加するが、同じように「笑う」ことでも脳の血流量は増加すると実証されたことを付け加えておきたいと思う。

進路実現のために

進路指導部 北 浩憲

進路実現のための努力を大きく二つに分けると、「未来の自分さがし」と「未来の自分づくり」だと思います。言うまでもなく、自分の興味・関心や適性などを的確につかみ、それに基づいて自分の将来の姿を描く事が「未来の自分さがし」であり、そこで描いた自分の将来の姿に少しでも近づけるために、必要な学力や技能を身につけることが「未来の自分づくり」です。この二つは車の両輪のように、どちらが欠けても事がうまく進むことはありません。また、二つとも自分独りで実行するのは困難であり、どうしても周囲の理解と支援が必要です。生徒一人一人が誰かに強制されるのではなく、自らの意志で「未来の自分さがし・自分づくり」に力強く取り組んでいけるよう、保護者と教員が協力して支援していききたいものです。

さて、本年度も一月十七日・十八日に大学入試センター試験が実施されました。全国では昨年度とほぼ同じ約五十四万四千人が出願し、本校もおよそ三百十人が受験しました。本年度は、世界史・化学など一部の科目で平均点が上がったものの、国語・英語をはじめ多くの科目で平均点が下がっており、より思考力・分析力を要する出題が多くなったと思われまふ。本校でも全国同様、昨年より得点率はやや低下しましたが、全国平均の低下率に比べると何とか踏みとどまった方であると言えるでしょう。ただし、全国平均を下回った科目もいくつかあり、改めて受験の厳しさを感じさせられる結果となりました。

三年生はセンター試験自己採点の結果を踏まえて、国公立大学への出願と前期日程の個別学力試験を終え、現在は中期、後期日程に向けて、それぞれが個人添削指導などに一生懸命取り組んでいるところです。三年生諸君にはこれまで通り、自ら考え行動する姿勢と、目標達成に向けて挫折せず、最後まであきらめ

ない強い心を持ち続けてほしいと思います。それに加えて、思いやりのある素直な心をつまでも失うことなく、周囲からの信頼を得ることで、希望に満ちた将来をつかんでくれることを切に願っています。

一・二年生の皆さんは、三年生の後姿を見ながら、様々なことを学んで欲しいと思います。今回の大学入試センター試験の出題内容を見ても、一年次からの学習に対する取り組みがいかに大切かが実感できるはずです。センター試験の問題は、ほとんどが一・二年次の学習内容から出題されており、基礎基本の定着はもちろん、加えて「ランク上の学力（応用力・思考力）」が必要となってきます。したがって、今この時が大切なのです。これまで、皆さん言われてきたことだと思えますが、一時間一時間の授業を大切に、予習（思考力の育成）→授業→復習（学習内容の定着）のサイクルをしつかり確立させることの意義がここにありまふ。これを積み重ねていくしか、学力向上の方策はないのだという事を肝に銘じておいてください。

三学期は、新学年の0学期と言われています。現学年の終わりでではなく、新学年がもう始まっているのだと認識しましょう。そして、年度末や年度初めの様々な行事のために授業の進捗が遅いこの時期は、目標達成に向けてスタートをきる絶好のチャンスと捉えて、密度の濃い一日一日を過ごして欲しいものです。



センター試験会場にて

平成二十年度 一日遠行

体育科 富田耕作

一日遠行は加治木高等学校創立百周年の記念行事として始まり、創立百一十周年を迎えた今年度は、(一)百一十周年の伝統を受け継ぎ、強靱な体力と不屈の精神を養う。(二)本校の教育目標にある「清新深刺」「質朴剛毅」「堅忍不拔」の具現を図る。(三)友情をさらに深め、高校時代のよき思い出を作る。という目的のもと十二回目の実施となった。

今年度は、学校からスタートし竹山ダム、竹山ダムから折り返して学校までの約二五kmのコースへと大幅にコースの変更をした。色彩豊かな紅葉、鳥のさえずり、澄んだ空気を楽しむことができ、二度の大河ドラマの撮影が行われた龍門司坂・加治木島津家城跡である本校をコースの一部に含む、味わい深い素晴らしいコースである。

十一月二十一日、スタート時に少量の降雨があり、若干の心配を胸に秘めながら男子二百九十二名、女子二百八十九名がゴール目指して本校グラウンドをスタートした。心配された雨の影響も全く無く、温暖な気候の中で遠行を終えることができた。

トップは男子が二年八組の瀬戸口蓮君(一時間四十二分)、女子は二年二組の細間智美さん(二時間一分)であった。

何よりも素晴らしいのは、大きなけがもなく、無事に遠行を終えることができたことであった。そして、生徒たちの強靱な体力と強い精神力には本当に驚かされ、また感動を与えてもらった。

また生徒達にとっても、お互い励ましあいながら友情を深めたこと、沿道からの応援や給水所での温かいお湯など、なし等良き思い出とな



り、困難を乗り越えられた経験は、これからの学校生活へ向けて大きな自信となるに違いない。PTA役員の方々、地域の方々の協力があったからこそ一日遠行の成功であったと感謝している。



最後の北海道修学旅行

二年主任 楠元 務



出発前夜の夜、一本の予期せぬ電話があった。「明日の修学旅行で利用する航空機が、濃霧により今日中に鹿児島空港に着陸することができない」とのこと。この期に及んで集合時間を変更する訳にもいかず、翌朝の幸運を祈るしかなかった。

幸い、出発時間は若干遅れたものの、千歳空港には予定通りの時刻に到着した。初日の小樽市内の自主研修では、路上の積雪をしっかりと踏みしめて、北海道の大地を体感しつつ、買い物や写真撮影など、思い思いに楽しんだ。二日目、初めてのスキーに果敢に挑戦する生徒たちの姿が見られた。転んでも転んでも、再び立ち上がったときの歓声と笑顔は、青春の輝きとエネルギーに満ち溢れていた。翌日ともなると、生徒たちの上達ぶりは驚くほどであった。前日「あんまり滑れなかったよ」と言っていたはずの生徒が、まるで別人のように上手にスキー板とストックを操っている。悪戦苦闘している私を尻目に、「先生、お先に」と誇らしげに追い抜いていく姿は、実に頼もしく、

そして少し羨ましかった。スキー研修が終わると、札幌市内散策を行った。凍てつくような寒さは身にしみたが、大通り公園のイルミネーシ



ヨンはとても幻想的で、脳裏に焼き付けられた。最終日、北海道を後にする生徒たちは、満足感と充実感でいっぱい表情だった。期間を通して、生徒たちの行動は大変規律正しく、加治木高校生の名に恥じないものであった。大きな事故や病気もなく、また好天にも恵まれて、まさに順風満帆と言つていい4日間であった。北海道への修学旅行は今年最後に幕を閉じることになり、少々寂しい気もする。しかし、生徒たちは、今後の体験で得た自信と思い出を胸に、今後の高校生活をより一層充実させてくれるものと確信している。



3年部役員とバレー部保護者らが協力
竹山ダム遊歩道まで降りて往復する25kmコースになった

竹山ダム 給水所



おにぎりやパワーアップ!

事務室の小野裕美先生(写真左)は今年1月の指宿菜の花マラソンにも参加!レディースB部門でナント3位!(タイム3時間22分06秒)

一日遠行を振り返って
2年P 厚生部長 大塚英晃
2008年11月21日(金)、加高恒例の第12回「一日遠行」が催されました。
当日、当初は雨が降り、決して良いコンディションとはいええず、またコースの見直しもあり、準備作業に戸惑うことが多い中での開催となりました。しかし皆様の多大なご協力により、大きな問題もなくスムーズに実施することができました。事前の打ち合わせや買い出し、当日早朝からの各給水所設置、生徒受け入れ準備、最後の撤収作業まで本当に感謝いたします。生徒たちも安心して学ぶことができたのではないかと思います。
一日遠行につきましては生徒たちが「校是」を身をもって知るすばらしい行事だと思います。これからも是非継続して開催してほしいと思います。



旧JA辺川支所 給水所

第12回 加治木高等学校

一日遠行2008

学校⇄竹山ダム往復
(男女ともに約25km)

2008年11月21日(金)実施

辺川給水所は往復2度の給水!
2年部役員らが協力

今回から龍門司坂(約500m)を往路でのぼることに!復路は林道



頑張る子どもたちに声援を送る保護者

女子は9時スタート!

男子は9時20分スタート!



龍門司坂 給水所

水分を補給して、さあ学校ゴールまでもうひと息!(復路)1年P役員らが協力



加治木高等学校

女子ゴール!	男子ゴール!
1位 細蘭さん(2年) 2時間19分	1位 瀬戸口くん(2年) 1時間42分



学校ゴールの様子 小橋口先生らが最後尾の生徒とともに16時前に到着!上今校長・下井田事務長らが迎えた

加高卒業生の朝日くん箱根駅伝出場!



放送中のテレビ画面より

2009年1月2日・3日の箱根駅伝 早稲田大学チーム復路第9区
朝日嗣也選手出場(早稲田大学4年=牧園中・加治木高校出身 平成16年卒業)

2位 W 早稲田大 朝日 嗣也 4年 鹿児島・加治木高

そこには小学6年の頃のほしやく息子はいなくて、少し成長し走りに関しては辛口になった我が子がいきました。
これからは夢に向かって大学という大きなハードルを飛び越す為に、走り続けてほしいと願い心から応援するのみです。
(原文のまま)

加治木高校PTA新聞
2003年(平成15年)3月号掲載
夢に向かって 朝日俊子
「運動の苦手な長男が、小学5年生の時、持久走大会で4位になりました。
息子は大喜び。6年生では1位になる事を目標に又、体力づくりを兼ね毎日走り続けました。努力の甲斐あって2位との差も大きく1位でゴールイン。校庭で応援してくれる人達に両手を上にピョンピョン飛び跳ねながら、その応援に感えていました。
その時から走る事の楽しさを覚え感じたのが、早く中学生になり陸上部に入部して走りたい、そして大学に行つてからも絶対に走りたいという夢を持つようになりました。その大学を前に、**高校最後の遠行に参加し運良く1位。**応援に行けなかったので感想を聞くと「去年に比べ今年は天候に恵まれ走りやすい条件であったにもかかわらず、あまりタイムが伸びなかった」と、自分の走りを冷静に分析していました。
そこには小学6年の頃のほしやく息子はいなくて、少し成長し走りに関しては辛口になった我が子がいきました。
これからは夢に向かって大学という大きなハードルを飛び越す為に、走り続けてほしいと願い心から応援するのみです。
(原文のまま)

朝日選手が加治木高校2年生時、お母様がPTA新聞に寄稿された「一日遠行」の手記を見つけた!心温まる内容でしたので紹介します。

卒業



“ありがとう 加治木高校”

313名が加治木高校を卒業していきます。
子ども達と共にPTAを卒業される保護者の方にその思いを綴って頂きました。

卒業に寄せて

3年P 山中 六江

思いではいつばいにある。この言葉をかみ締めながら息子とともに卒業してゆく。先生保護者の方々、お世話になりました。親として今あなたに出来ることは、一篇の詩を贈りたい。

「息子たち」

私には三人の子どもがいる
ほとんど年子のような男の子たちである

毎日三人で喧嘩して暴れ回っている
しつても何もあつたものではない

私たち二人の子どものみだから
旦那にも私にも似ていない

あるいは私たちの中にかくれている何か
突然息子たちに現れたのかも知れない

私は毎日子どもたちを一人ずつ
心の中でひっぱたいて暮らしている

もしかすると私は彼らを叩きながら
実は私自身を叩いているのかも知れない

最後に「ご卒業おめでとう！」



2007年12月のJOB
では自作の詩を朗読

夢はきつと!!

3年P 田ノ上妙子

「文化祭でバンドやる!!」バンド名は「BANG☆BEAT」(パンビ)!!
始まった高二の夏。結成してわずか三ヶ月。補習、部活、バンド練習、宿題と一日中フル回転の日々をのり越え、二〇〇七年九月八日、加治木高校体育館鮮烈デビュー!!
「欲びと緊張の中、粗削りだけどテンポのいい演奏が始まった。流行りの曲は、観客の声援でいっそう盛り上がる。バンド名入りの特注タオルで滴る汗を拭う五人の顔が満足げに光輝いていた。」

ボーカル：なほ、キーボード：たえ、ドラム：みさと、ベース：ようこ、ギター：あゆこ!!

「音楽ってすごい!!」が口癖の娘。理解ある先生方に恵まれたこと、多くの友だちに支えられたこと、バレー部のみんながいつも応援してくれたことに感謝しながら、あの日以来、より大きく膨らんだ夢へ向かって歩んでいます。



2007年9月文化祭ステージより
BANG☆BEAT (パンビ)

PTA活動に参加して

3年P 竹下 弘子

長男の入学を機に父親が立ち上がった。きつかけは父親理事を引き受けた事に始まる。中学校までのPTA活動は、母親である私の務めであったのだが。

翌年から副会長、次男の入学の年には会長を引き受ける事に・・・思春期の我が子達は、どのように感じていたであろうか。きつと複雑な心境であったに違いない。

私達夫婦はというと、活動と称し、生徒達の一生懸命に取り組む姿に魅せられ感動を味わうため、多くの行事に参加した。その事により親子の会話も増えた。

目標とする大学進学に向け親が出来る事は、共に学び励まし続ける事であると身をもって感じた。家族にとつて共に過ごした八年間は、財産となつていく。

末娘もこの春から親元を離れての生活を始める。出会ったすべての人に感謝し大きく羽ばたく姿を見守っていききたい。

緊張の入学式からあつという間の卒業でした。三年間の高校生活は娘にとつて忙しくも、楽しく充実しており、受験を通して謙虚さも学んだと聞いています。



顧問の上籠幸介先生を囲んで女子バレー部の皆さん～インター杯予選アリーナ前で撮影

いつも笑いを

3年P 古江 典子

特に笑うということは、問題解決に役立ち、全てを良い思い出に変える力になると思います。大いに笑って楽しかった学年・学級懇親会。先生や保護者同士の絆が深められ、子どもたちの為に頑張ろうと励まし合える良い機会になりました。子どもたちは卒業しますが、新しい生活での試練を笑って乗り越え、全てを良い思い出に変えて前進することを祈ります。支えて下さった先生方、生徒・保護者の皆様、本当にありがとうございました。



三年間PTA新聞編集にも関わり、保護者間の親睦も深まりました

俯瞰する目

三学年主任 四之宮 誠

皆さんの巣立ちに当たり、共に過ごした月日を振り返ると、いつものことながら時の持つ重さを実感させられます。桜の花が君達を祝福し、迎えてくれた入学式。あの日から、はや三年が経とうとしています。様々な体験：北海道の白銀の丘にシニョールを描いた日のこと、灼熱の太陽の下で悲願の応援優勝を勝ち取ったこと、そして三百余名が心を一つに全力を傾けたセンター試験、その後の最後まで粘り強く頑張り抜いた私大入試や国立大個別試験等。こうした個々の体験の連鎖の中には、単なる物理的・現象的な時の流れとしての意味以上の、濃密な生命の躍動が感じられるのです。この数々の財産を本当に大切にして下さい。激動の、決して良いことばかりではない時代です。周知のとおり先の見えないどん底の世界景気、連日報道される殺伐とした事件・事故、相も変わらず繰り返される愚かしい抗争や戦争等。人は立ち直れるのかと危惧するほどの現実であります。しかし、人類が過去に幾多の危機を乗り越えてきたこともまた事実です。巨大な宇宙空間から見れば豆粒にも満たない地球上、身を寄せ合って暮らす私達人間存在についてのこうした視点が、現代を再生に導く力となるのではないのでしょうか。

苦難に耐えよ

理科 田口 正 篤

菅仲、重耳、晏子、子産、孟嘗君：中国の春秋戦国時代を鮮やかに生き抜いた人物であり、宮城谷昌光の著書のタイトルでもある。彼の作品に共通するのは、

高い志を得た主人公が不遇の青春時代に力を養い、時を経て鮮やかに躍動し始めるというものである。歴史上にその名を刻んだ人物は必ず、絶望の淵にもがき苦しんだ苦難の時をもち、その絶望が深いほど、その時が長いほど、大きな人物となつて大事業を成し遂げるという。別な言い方をすれば、天が人を選ぶのである。志を高くもつ者、大きな気を持つ者をまず選び、最初の試練を与える。乗り越えて来た者にさらなる試練を与え、繰り返して試練を与え、全てを乗り越えた者に大事を託すのだ。耐え切れず途中でリタイアした者にはそれなりの小事が託される。

高卒時はほぼ同じレベルであったのに、いち早く難を逃れた者と、幾たびもの苦難に正面から立ち向かい、乗り越える過程で成長を繰り返した者との間には、大きな差が生じる。これから親元を離れ、独り立ちするにあたり、君らには志を高く掲げ、人に勝る苦難の道を行く覚悟を要求される。何故なら、加高を卒業した段階で天に選ばれる資格を得たのだから。しかしながら、最後まで選ばれ続ける者は極々一部である。試練は嫌だという人、安心して、早々にリタイアすればそれなり安穩な人生が準備されているから。最後にひとつ、天が託す大事とは、必ずしも社会的な地位に対し託されるものではないということをお忘れしないで欲しい。それでは悩み深き人生を！

五つ心の 保健体育科 森 口 洋

卒業おめでとうございます。男は、男らしく。女は、女らしく。立派な社会人に成長してほしい。 「はい、という素直な心。 すみません、という反省の心。 おかげさま、という謙虚な心。 させて頂きます、という奉仕の心。 ありがとう、という感謝の心。」

人に好かれる人はこの五つ心の心を持つ人である。いかれる人の言葉は口にはできる人は、愛され、信頼されて幸せな人生を築いていくことが多い。

健康で安全な生活を営む努力も、新しい知識や技術を習得する努力も必要だが、この五つ心の心が持てるように日々の生活の中で実践し続けてほしい。

我が原点は母校にあり

英語科 吉川 由久

加治木高校は私に二つの贈り物を与えてくれた。英語とギターだ。入学早々先生の説明を無視して辞書を読んでいた友が Don't father yourself (自惚れるな) と大声で叱られてレベルの高さを感じました。豆単の英文暗唱に夢中になり、難文添削で鍛えられ、覚えた英語を試すために学校近く外国人宣教師のいる教会を訪ねたものです。英語教師になり長年の目標であった英検の資格を母校で達成でき、母校が取り持つ縁を感じます。今友との語彙研究が楽しみです。

もう一つはある映画音楽に魅せられたこと。在学当時、審査の最終日に加治木の映画館を多くの生徒が訪ねていました。入場料三百円で親と口論しながら徹夜の勉強で眠たい目を擦りつつも、本懐の目はキラキラに光っていました。三島由紀夫の「潮騒」、「サウンド・オブ・ミュージック」等の名作は青春の好奇心を大いに満たしてくれました。中でも反戦映画「禁じられた遊び」は感動物でした。戦災孤児の少女と農家の少年との純心な愛情を描いた名作に体全身が震え暗闇の中で泣きました。作品以上に感動したのは主題歌でした。いつか必ずこの切なく甘美な旋律をギターで弾きたいと心に誓いました。その後なかなか上達せず何度も挫折しましたが、間々とても続けさせることが出来ました。弾けるようになることを知りませんでした。 巣立ち行く君らも母校で学んだことを大切に、困難や挫折に悶々と苦しみながらも呑気・根気・元気で人生の花と嵐を踏み越えて行って欲しい。『心に太陽、唇に歌を』持つて、ドレミファソラシドに次の言葉を当てて歌って行こう。 Today, I'll sing a happy song, 皆で歌いたいよ。 Today, we'll sing many, happy songs.

最後に、微を送り、皆の前途を祈ります。

今君は人生の岐路に立つ 三歳に培いし力を携えて 試練の険しい坂道の前に 坂道はかけのぼれ一心不乱に 踏いても倒れぬも構わぬ 踏き他ならぬ前進の証 倒れたら怯まず起き上れ 避けて通れぬ道にあらず この道こそ吾を生かす道 愚痴や弱音は笑い飛ばし 思いを凝らし一気にゆけ

チエンジ

家庭科 稲 次 由美子

「チエンジ」新しくアメリカ大統領になったオバマ氏が好んで使う言葉です。芸術鑑賞会でゴスペル誕生の話があったように、これまでアメリカでは、人種差別をなくすために多くの人々が闘ってきました。私も小説や映画などで差別の実態を知っていたので、今回の黒人大統領誕生には大変感動しました。 ところで、家庭科の男女共学が実現するのにも、二十年以上に及ぶ運動がありました。 性別役割分担意識のもとで、家庭科は長い間女子のみが学ぶ教科でした。私自身女子のみの家庭科に疑問を持たず、家庭科教師になりました。しかし、教員になつて2年目、ある研究会で家庭科の男女共修を進めている人たちがいることを知り、それは私にとつて、目から鱗が落ちたという感じでした。それ以来一貫して、家庭科の男女共修を実現するために頑張ってきたつもりです。根強い性別役割分担意識と家庭科蔑視の中で、他教科の先生方に理解してもらおうことはとても困難なことでした。また家庭科教師の中にも古い考え方が多く、研究会などで男女共修にすべきだと訴えても時期尚早と相手にしてもらえず、何度も悔しい思いをしました。 しかし、教育研究会や家庭科教育研究者連盟などの研究会に参加して、学習する中で家庭科男女共学の必要性をますます強く感じるようになりました。そして教科内容を女子向きから、男女共に学べるものに変える努力も続けてきました。 こうして様々な人々の運動の結果、一九九四年に、全国一斉の男女共学が始まった時には本当に嬉しく思いました。 このように当たり前と思われている差別でも粘り強い運動で変えていけるのです。皆さんはやがて社会を担い、動かしていく人々です。どんな困難にも勇気を持って立ち向かい、誰もが幸せに暮らせる社会を実現してほしいと願っています。

部活動大会参加及び入賞記録

- 体育部門
 - ▽ 県外大会
 - ▽ 弓道 全国大会出場 2年 岩澤 夏海
 - ▽ 果大会
 - ▽ サッカー 高校新人3回戦
 - ▽ ハンドボール 高校新人
 - ▽ バレーボール 高校選抜大会 男子2回戦 女子1回戦
 - ▽ 剣道 勝ち抜き大会 1回戦
 - ▽ 弓道 県選手権大会 女子4位、男子24位、個人 岩澤2位
 - ▽ 柔道 県選手権大会 個人60kg級 前田 3位
 - ▽ 始良伊佐秋季大会
 - ▽ ラグビー 第2位
 - 文化部門
 - ▽ 美術部 第59回県高校美術展 秀作賞 2年 鶴丸 由美 奨励賞 2年 東山 惠理
 - ▽ 書道部 県高校書道展 秀作賞 2年 川田 桃子 優秀賞 2年 中嶋千代美 2年 森田 育美
 - ▽ 放送部
 - ▽ 第30回九州放送コンテスト(大分大会) ラジオ番組部門 入選 1年 松岡 鈴
 - ▽ 演劇部
 - ▽ 第17回県高校演劇冬季県大会 優秀賞
 - ▽ 生徒会新聞委員会
 - ▽ 第20回学校新聞コンクール 第三席
 - ▽ 個人
 - ▽ 第32回全国高校総合文化祭(群馬大会) 文学カルタ大会優勝
 - ▽ 文化連盟賞 3年 堤 みなみ

